

【テーマ2:ポストコロナのGIGAスクールに照準を合わせた

「教師が育つ」校内研修・授業研究モデルの開発及び普及】

【熊本大学大学院教育学研究科(教職大学院)】

熊本市教育センター(再委託先)、熊本県・市教育委員会、熊本県立教育センター、県内教育事務所、校内研修モデル開発協力校(熊本市小中高等学校19校)、教員研修ニーズ調査協力教員899名、総括シンポジウム参加者302名

モデル開発概要

現場における課題

- ◆ GIGAスクール構想により整備されたタブレット型端末を活用した授業改善には、教員間・学校間による格差がある。
- ◆ 一般的な校内研修では、教師1人1人の個別最適な学びに資する協働的な研修の機会になりえていない。

モデルの概要

- ◆ 本学大学院教育学研究科前田康裕特任教授による「授業改善プロジェクト」のモデル(右図)ならびに概念化モデル
- ◆ 授業改善のための問題発見・課題設定、改善の過程において、同僚との協働的な授業改善の場の設定、ICTや研修動画を効果的に活用し、個別最適な研修を実現する。

活用する技術・ツール等

- ロビチェック(2019)「変革や改善のためのスキル」、松尾睦(2021)「自己変革スキル」による研究授業等から得られた情報を自己変革の資源として活用する教員研修モデル
- コルブ(2018)の経験学習モデルによる経験・概念化モデル
- ハッティら(2022)のコレクティブ・エフィカシーを活用した協働的組織的取組モデル
- 上記の理論的背景をもとに、1) ICTを活用した授業風景 2) 校内研修の様子を撮影した動画 3) 大学教員による研修動画 などを作成し、教員研修用動画を作成・活用する。

高度化に資する取組

- ①教員研修ニーズ調査の実施
- ②先駆的取組を行う他大学等の視察・情報収集
- ③校内研修・授業研究会において、主体的・対話的で深い学びを実現する大学教員のスキル向上をめざした研修の実施
- ④教員研修用動画の作成・公開
- ⑤「教師が育つ」校内研修・授業研究のモデル開発
- ⑥総括シンポジウム・成果報告会
- ⑦Webページ・報告書による情報発信・普及

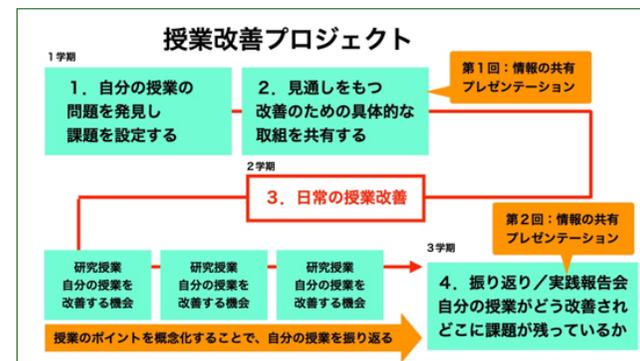


図 「教師が育つ」校内研修・授業研究モデル

モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

モデルを活用する上でのポイント

「同僚の研究授業を見る」「共有された意見をもとにグループで対話する」ことにより「同僚との関係性」の高まりにつなげる。

期待される効果

本モデルの活用により、「ICTの授業での活用に関する知識」や「主体的・対話的で深い学び」に関する理解が高まるとともに、教師1人1人が自分の授業の問題点から問いを立て、その改善を意識しながら実践を積み重ねることにより、自分の変容を自覚し、研修への高い評価が期待できる。

(参考)本事業のWebページURL: <https://rindo.educ.kumamoto-u.ac.jp/>